

•会報第2号の発行によせて•

今年はご承知の通り、京都での展覧会の開催年となっております。

一昨年の中国との交流展に引き続き、今年はブルガリアの版画作家の方達との交流展を開催する運びとなりました。

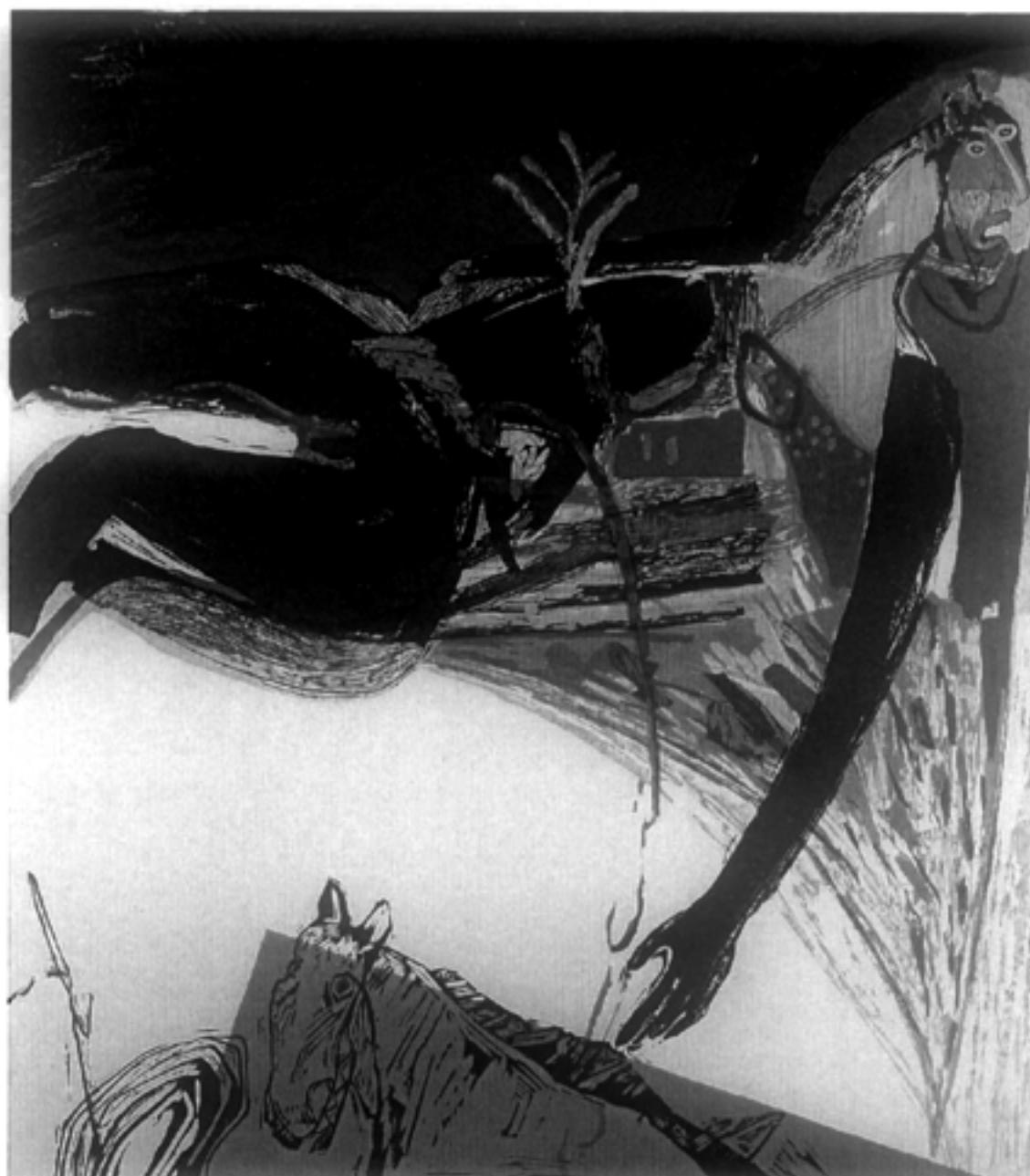
前回とはまた趣きの違った展覧会となることでしょう。

この会報は、会の活動そのものを主体に取り上げるのではなく、会の活動だけでは見え難い、出品作家の個別の活動を取り上げ、

広く知らせる事を目的としておりますので、京都展の細かい情報等は掲載いたしませんが、関連する内容もありますので、是非お読み下さい。

Ohshita Yuka

大下 百華



目には見えないもの
たとえば、希望や光、生命
そんなもの達に意識を運びながら
わたしは線をひき 色を選び木を彫る……。
そこから生まれる多くのイメージは
生命の仮の姿(人や動物)や
自然の中から流れてくるメッセージだったりする
今日も生かされている生命の詩を歌いたい。

「To the immanent sky (内在の空へ)」
100×90cm 多色木版
2003年制作

Contents

■会報第2号の発行によせて

■作家紹介 大下百華さん

■ブルガリアの「白雪姫」 ~黒崎 彰~

■文化庁特別派遣芸術家在外研修員報告①

~齋藤 修~

■中国ツアーレポート ~酒井 宣彦~

■掲示板

KYOTO版画200X

・作品研究会を終えて ~藤村 嘉猛~

■次回告知

■編集後記



作家紹介

Ohshita Yuka

大下 百華 さん



「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。今回は大下百華さんです。
大下さんは各地で数多くの個展やグループ展での発表を続けています。

生命力溢れるイメージは刻々と変化を遂げ近年はタブローや立体的な作品まで幅広く発表されています。
大阪での個展前で忙しくされている時期でしたが質問にお答えいただきました。

- Q1. ご自身の作品について(テーマ、コンセプト等)
- Q2. 作品を作る上で、1番大事にされている所はどんな所ですか?
- Q3. グループ(団体)に所属して作品を発表する事について、どう思いますか?
- Q4. 全国各地で展覧会を数多く催されておられます、色々な場所で作品を発表される中で、何か感じられる事はありますか?
- Q5. 今後の作家活動について何か一言

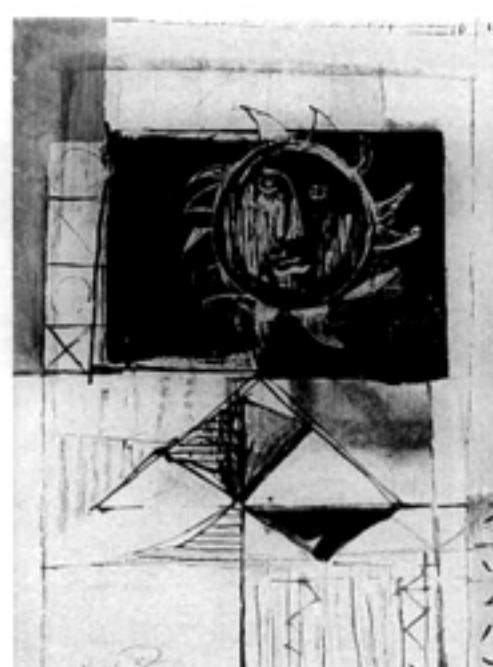
A1. 作品を発表してから今年で6年目になります。この間、いつも大切にしてきたことは常に自分自身の心と対話し、イメージの扉が開かれるまで、とにかく描くこと手で考えることをしてきました。私にとって描き彫ることは、感覚とフォルムを結びつけることであって、感覚的な解釈をすることなのです。そしてそこから生まれてくる生命の躍動感をとても大切にしてきました。

A2. 表現することとは、ただ感覚的な解釈ということだけなのか?自己充足的なアリティーにおさまるものなのか?とよく自問自答します。私にとって描き彫はある意味、自身の内に深く入りこむことと同時に世界を解釈することだと思います。さまざまに表現される形や色に意味を見い出すというよりは、それはすべて比喩にすぎないのであって内的、外的世界の本質を捉える作業だと思います。

A3. あまり深く考えずに団体展に出品してきましたが、今考えるとたくさん助けてくれた面があると思っています。また、ありきたりですが、ひとりで活動していたなら、なかなかいろいろな作家の方々と交流する機会もてなかっただと思います。ただ現代の美術表現において、団体展の役割が従来のままだと確かに新しい表現をしてゆきたい作家にとっては意味のないことのように思われるという点もこれから大きな問題だらうと感じます。わたしも今後どのように関わりをもたせてゆくべきか?考えてゆきたいと思います。

A4. 発表するごとに多くの人々に感謝する気持ちと反省する面がドンドンふくれあがり、押しつぶされてゆくようのような気持ちになるのですが、それを乗り越えるバイタリティーと追求心を持たないといけないと感じます。

A5. 版画についてより学んでゆくことと、またその版画という概念にとどまることなく表現することについて自己をもっと掘りさげつつ、新しいチャレンジをしてゆきたい! とにかく前進のみ、やってゆくしかないと思っています。



「and every time the sun come ...」
(そして太陽が昇るたびに...)」
ミクストメディア(版木、木炭紙、インク)
2000年制作



「Sing with a forest」
(森とうたう)」
90×60cm 木版・彫り込み法
2002年制作

プロフィール

- 1971年 東京都生まれ(石川県出身)
- 1997年 創形美術学校ファインアート科版画専攻卒業
- 1998年 創形美術学校研究科版画課程終了
- 2003年 文化庁芸術インターンシップ国内研修員

主な活動

●グループ展●

- 1997年 創形美術学校「創形賞」
- 第22回全国大学版画展(町田国際版画美術館)「買上賞」
- 1998年 創形美術学校「高澤賞」
- 第66回日本版画協会展(上野東京都美術館)「山口源新人賞」
- あおもり版画大賞(青森市民美術展示館)「準大賞」
- 第5回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展
- 1999年 第1回飛騨高山現代木版画ビエンナーレ「優秀賞」
- 第67回日本版画協会展(上野東京都美術館)「日本版画協会賞」
- 山本鼎版画大賞展
- 現代版画NAGOYA'99 版表現拡がる表象
- 第33回現代美術選抜展(文化庁)
- 2000年 第5回日本・ハンガリー現代版画展(長野)
- KYOTO 版画 2000(京都市立美術館 別館)
- 2001年 第7回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展
- 現代日本の版画 - 平安画廊コレクション展(メキシコ)
- 現代日本・ハンガリー版画展...10年の軌跡(ハンガリー)
- 日本ブルガリア現代版画展(ブルガリア)
- ジュオール国際ビエンナーレ(ハンガリー)
- KYOTO 版画 2001(京都市立美術館 別館)
- 2002年 KYOTO版画 2002 中国日本国際版画展(南京、北京)
- 山本鼎版画大賞展
- 二人展 - 木による表現. 木彫と木版画(京都 平安画廊)
- 2003年 第71回日本版画協会展 「準会員賞」

●個展●

- 1998年 コートギャラリ-国立(東京) 青樺画廊(東京)
- 1999年 平安画廊(京都) ギャラリーA.C.S(名古屋) 現代画廊(長崎)
ギャラリー52(東京)
- 2000年 シロタ画廊(東京) ギャラリーA.C.S(名古屋) 平安画廊(京都)
楓画廊(新潟)
- 2001年 画廊梵(岐阜) ギャラリーベルンアート(大阪)
ギャラリーA.C.S(名古屋) ART GALLERY TAPIES(神戸)
グリーンアートギャラリー(金沢)
- 2002年 楓画廊(新潟)
- 2003年 ギャラリーベルンアート(大阪)
ギャラリーA.C.S(名古屋)

ブルガリアの「白雪姫」

黒崎 彰

アメリカ式のスーパーマーケットやコンビニの普及によって、急速に変貌する日本の食事はますます平均化への道をたどり、時にはうんざりさせられる。そのせいか、海外を訪ねる機会がある時々に私が最もうれしいのは、その国々の独特な食に出会えることである。

ブルガリアは決して豊かな国ではないが、農業立国でもあるためだろうか、食事はリッチな味とバラエティに富んだ献立で楽しい。黒海からどれも豊富な魚をはじめ、ビーフ、ポーク、マトン、チキン、兎などの肉類に加え、野菜はほとんどそろっていて、用いる香辛料の幅も極めて広い。またそれぞれの食材が日本とはちょっと違った深い味覚を持っている。

例えば、毎食に登場するポピュラーな「ケバブチ」は、ポークミンチを練ったシシカバ風グリルであるが、いかにも簡素な作り方なので私もレシピを持って帰国し、トライしてみたが同じ味にはどうしてもならなかった。つまるところミートそのものが違うとしか考えられず、日本のポークはチキンのよう、チキンはターキーのように味が数段薄いのではないかと思われた。

だれもが知るブルガリアといえばヨーグルト。これは日本が作り上げた幻影では決してなく、本場の本格的な食材そのものといえる。ヨーグルト料理のふところの深さは別として、日本の漬け物のようにいつも食卓に並べられる「スネジャンカ」、訳せば「白雪姫」という可憐で可愛い名前を持つヨーグルトサラダは、その姿も味もまさに抜群である。

簡単なのでここにスネジャンカの作り方を紹介しておきたい。まず深さがあるザルにサラシ木綿をあてがい、1パックのヨーグルトをそこにあけて一晩放置する。翌日余分な水分を除いたペースト状のヨーグルトに、小さく切った3本ばかりのキュウリを放り込む。次に大粒に挽いたクルミ、細かく碎いたニンニク、地中海の香辛料バジル等を適量ふりかけ、好みによってオリーブオイルと塩の量を調整しながら、全体を混ぜあわせればでき上がりである。真っ白なヨーグルトに爽やかなキュウリがのぞく、さっぱりとした夏向きのサラダといえよう。

さて、ブルガリアに滞在して嬉しいのは、とにかくどこでもタバコが吸え、酒が飲めることである。アメリカ流の理屈っぽい健康法やピューリタニズムはここでは通用しない。人々はどっかと通りのカフェテラスに座ってたらふくビールを飲み、やたらタバコをふかして「ケバブチ」と「スネジャンカ」を口にする。

昔から変わらない日々の風習でもあろうが、酒、タバコが決められた場所でしか許されないアメリカと比べ、どちらが幸福な食生活で、どちらが健康な食文化なのであろうか。私は管理され、ごたくを並べられる「食」だけは、何ともご容赦願いたいと思っている。

文化庁特別派遣芸術家在外研修員報告①

齋藤 修

平成14年度の特別在外研修員としてパリの銅版一版多色刷りの工房(コントラボアン)での研修の体験を書けとのことなので二回にわたって書かせていただきます。

まず在外研修員制度の概略について。この制度は、昭和42年度より実施され現時点での派遣数(美術)は、350日(18~50歳未満)が23名、700日(18~35歳未満)が3名、1050日(18~32歳未満)1名、私が行きました特別派遣の80日(18歳以上)10名の4種類と国内研修の芸術インナーシップがあります。

応募の資格は、原則として日本国籍を有する者もしくは日本の永住権を有する者であること、年齢は()内の条件を満たし①現に専門とする分野で芸術活動の実績があること。②外国での研修に堪え得る語学力を有すること。③渡航先の研修施設の受け入れ保証があること。④心身ともに健全であること。以上の条件を満たせば応募できます。

私の場合は、日本版画協会の推薦を受け日本美術家連盟推薦により文化庁に上げていただきました。他に芸術家在外研修員推薦団体一覧表が募集案内にありますので参照してください。

私が行きましたアトリエコントラボアンは、ウイリアム、ヘイターが主宰していました銅版画の1版多色刷りの工房アトリエ17を彼の死後、遺族から施設のすべてを譲り受けた2人のディレクター(エクトール、ホアン)によってヘイターメソッドを継承しているアトリエです。所在地は、10, rue Didot. 75014 PARIS FRANCE. モンマルヌから歩いて10分ぐらいの場所にあり下町のにおいのする所です。アトリエの近くに銅版画の刷り師の工房が1軒あり、私は、朝アトリエに入る前に彼の仕事ぶりを窓越しに見せてもらうのがたのしみの1つでした。

次回はアトリエでの仕事について。 つづく



中国

ツアーレポート

2002年8月10日から16日に西安、12月21日から27日に北京・南京の日程で企画されたKYOTO版画2002・日本 中国 国際版画展訪問ツアーに参加した酒井さんのレポートです。インターネットのYAHOO Briefcaseのページ中に、ツアー中の写真が公開されています。酒井さんによるキャプション付きです。ぜひご覧下さい。
(http://briefcase.yahoo.co.jp/liq_ya)

昨年に実施された2度の中国訪問旅行に参加してきました。中国の様々な文化にふれ、名所旧跡を尋ねる事ができ、さらに美味しい料理も食べられるという、実に有意義な体験でした。

旅の途中で体調を崩して寝込んでしまい、西安でのオープニングに参加できなかったのは残念でしたが、まあそれも貴重な体験のひとつということで。

これらの事を自分なりに消化して、今後の作品に活かすことができればと思っています。

(酒井 宣彦)



天壇で凧上げ



メリー。



刷り



彫り

本を
いただきました

いざ。

さあ食べるぞお!



先生、がんばって!

掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●大下 百華 Ohshita Yuka ●

<個展>

会期：2003年7月12日(土)～7月27日(日) 月火曜休廊

場所：Gallery A.C.S.(名古屋市昭和区花見通3-17) tel.052-835-3780

●片岡 れいこ Kataoka Reiko ●

<出版物>

3月15日(メイツ出版)発行 「イタリアへ行きたい!」 ¥1500

著者:ユーメイル舎(イラスト/片岡れいこ 文/村上敏子、

協力/山下智子)

京都在住のイラストレーター(版画家)、ライター、ツアーコンダクターの共同作業により生まれたイラストガイドブック。現地取材旅行で見つけた情報やツアコンならではの情報をふんだんに盛り込んだ、イタリア初心者からリピーターまでお楽しみいただける内容満載です。(片岡 れいこ)



●角間 貴生 Kakuma Takao ●

ばくらの東京・銀座、養清堂画廊の二人展(角間貴生&田中玉実展)はおかげさまで大成功でした。今後の予定をお知らせします。(角間 貴生)

<日韓版画交流展>

会期：2003年5月13日(火)～5月18日(日)

場所：福岡市美術館特別展示室B(福岡市中央区大濠公園1-6) tel.092-714-6051

李教室の生徒さんの木版画(韓国)と角間貴生・教室の生徒さん(日本)の銅版画作品の競演、そして日韓の文化交流

<角間貴生版画展「アート◎天文博物館」>

会期：2003年6月1日(日)～6月30日(月)

場所：久我記念美術館・1F全館(福岡県須恵町須恵77) tel.092-932-4987

福岡市広報誌「鴻都」表紙に掲載中の作品を中心に、角間貴生の宇宙的なテーマの巨大木版画によるインスタレーション展示。そして緻密な銀河心象風景の銅版画作品を加えた版画空間「アート◎天文博物館」

●川端 千絵 Kawabata Chie ●

<RELISH> 版と陶によるグループ展

会期：2003年6月20日(金)～29日(日)

場所：ギャラリー陶泉堂(京都市左京区下鴨松の木町59) tel.075-701-6414

<個展>

会期：2003年10月13日(月)～18日(土)

場所：画廊 編(大阪市中央区千日前1-2-6) tel.06-6214-2595

●黒崎 彰 Kurosaki Akira ●

<「木版画へのいざない 黒崎彰とその仲間たち」展>

会期：2003年7月23日(水)～8月10日(日)

場所：ポートピアホテルギャラリー

(神戸市中央区港島中町6丁目10番地1ポートピアホテル1F) tel.078-303-7373

出品作家／黒崎彰・斎藤修・平木美鶴・張 珂・坂本恭子

●坂本 恭子 Sakamoto Kyoko ●

<個展>

会期：2003年10月7日(火)～19日(日)

場所：平安画廊(京都市中京区寺町通三条上ル西側) tel.075-231-0694

京都では9年ぶりの個展となります。会期中の前半は「京都版画2003」展と重なりますので、併せてご覧いただけました幸いです。また、7月の「木版画へのいざない 黒崎彰とその仲間たち」展、10月のガレリアキマイラ(東京都大田区久が原1-22-1 tel.03-3754-2200)でのグループ展への出品を予定しております。(坂本 恭子)

●その他●

<ドイツ現代木版画展>

会期：2003年5月22日(木)～6月21日(水)

場所：京都精華大学 ギャラリーフロール

(京都市左京区岩倉木野町137 京都精華大学) tel.075-702-5230

XYLON(キシロン・国際木版画協会)に所属するドイツ作家による展覧会。計59名の作家による85点によって木版画の伝統と新しい可能性を提示します。

講演会：5月24日(土)pm1:00～3:00 マリー・ルイーズ・サルデン氏(作家)

対談：司会／小林昌夫氏(学芸員)・黒崎彰・マリー・ルイーズ・サルデン氏 参加無料

<京都府所蔵品展～近年の収蔵品から～>

会期：2003年4月5日(土)～7月6日(日) ※開催中

場所：京都文化博物館(京都市中京区三条高倉) tel.075-222-0888

●公募展情報●

<INTERNATIONAL PRINT BIENNIAL IN BEIJING 2003>

会期：2003年9月6日(土)～18日(木)

場所：Yan-huang Arts Gallery(北京/中国)

応募作品送付：2003年6月1日(日)まで

*応募要項を希望される方は80円切手同封の上総務までお問い合わせください。

版画京都展実行委員会 総務 坂本 恭子

〒565-0081 大阪府豊中市新千里北町1-1 C26-109



KYOTO版画200X

作品研究会を終えて

2003年1月19日、京都会館で第2回作品研究会が開催されました。13名の方が作品を持参し、実行委員会の後、諸先生方にご講評いただきました。

私自身は、日頃は自らの作品作りに悩みつつも、近くに意見をもらえる機会がないため、貴重なアドバイスをいただいて、大変ありがたい研究会でした。また、ほかの皆さんのお品も以前から目にしていたものの、いろんな版種にわたり、制作者の意図や作品作りの思いを聞いて、大変参考になりました。やはり今回のような機会が作品制作には欠かせないものだと改めて感じました。

3月にはいよいよ版画協会展です。残りわずかの期間となりましたが、今回の研究会での先生方のご講評を胸に、制作に臨んでいます。

みなさんがんばりましょう。

研究会の準備に佐久間先生、山本先生お世話になりました。

(藤村 嘉猛)



次回告知

第3号の会報の発行に向けて、次の情報を募集します。

・2003年12月～2004年5月頃の展覧会情報・活動情報

・その他版画に関することならなんでも。(例:プレス機買います、売ります／～について購入先を教えて下さい／この技法を知りたい／などなど。)

会報担当：川端 千絵

編集後記

山の緑が日毎に濃くなり、まるでブロッコリーの様に見えます5月、会報2号の発行です。

今回は、中国ツアーレポートやブルガリア情報、斎藤先生のフランス滞在記など、国際色豊かな内容になったかと思います。それにしても北京は今、物凄い事になっている様ですが……。

中国ツアーや何事もなく帰国できてよかったです。

次号の発行は、まだ未定ですが、半年後位を予定しています。皆さんからのご寄稿や、展覧会情報などを広く募集しております。どうぞお寄せ下さい。

